

研修報告

■ 研修内容	第16回 教育セミナー
■ 日 時	平成25年2月23日(土)
■ 会 場	国立オリンピック記念青少年総合センター
■ 主 催	(財)総合初等教育研究所 後援：文部科学省 東京都教育委員会

第7期研究テーマ「確かな学びをつくる」

— 教科・道徳における実践課題とその克服 —

◇ 分科会

1 基調提案	総合初等教育研究所室長	梶井 貢 先生
2 授業実践報告	練馬区立富士見台小学校	渡瀬 雅江 教諭
	府中市立小柳小学校	池田 守 教諭
	世田谷区立塚戸小学校	中盾 浩太 教諭
3 指導・講評	文部科学省初等中等教育局教科調査官	澤井 陽介 先生

1 基調提案

「問題解決力を高める授業の工夫」

総合初等教育研究所室長 梶井 貢 先生

第6期研究を終了し、第7期研究に取り組むにあたって、

- 昨年度までの反省点
 - ・学習問題の設定やその質について、子どもの追究力や学習の継続性の面からの問い直し。
 - ①学習内容や子どもの問題意識によっては、1単元もしくは1小単元に2つの学習問題があってもよいのではないか。
 - ②学習問題の設定にあたっての教師のかかわり方や学習問題の質には3年生と6年生では当然違いがあつてよいだろう。
 - ③教材や学習内容によっては、問題解決学習のプロセス（つかむ→調べる→まとめる→生かす）を柔軟に組み立ててもよいだろう。
- 今年度の研究課題
 - ・問題解決の質を高める工夫
 - ①切実な学習問題の設定をどのように工夫するか。
 - ②一人ひとりの多様な追究を可能にするにはどうしたらよいか。
 - ③問題解決の過程を改善することで、社会的な見方・考え方を深めるにはどうしたらよいか。
 - ④社会参画につながる課題づくりを工夫できないか。
 - ・思考力・判断力・表現力の評価
 - ①思考力・判断力・表現力育成の場を指導計画・評価計画に確実に位置づける。
 - ②子ども一人ひとりの思考・判断・表現の持ち味、良さが生きる学習活動を工夫する。
 - ③子ども一人ひとりの着眼点、質などの見取り方と個に応じた指導の仕方を工夫する。
 - ④学習の見通し、ふり返りの場を設定する。
 - ⑤多様な考えや自他の考えの良さに気づき合う。
 - ・話し合い活動の充実
 - ①考えを深め合う学習形態を工夫する。
 - ②個々の考えの表出の仕方を工夫する。
 - ③思考を練り上げる方法・スキルを習得する。
 - ④考えを深め合い、広め合うための教師の役割をつかむ。
 - ・社会参画……社会の形成に参画する資質・能力の育成

2 授業実践報告

(1) 授業の概要

○ 中心概念

私たちの健康な生活の維持・向上に欠かせない、安全でおいしい飲料水を確保するためには、水道局で働く人々の計画的・協力的な取り組みや、地域社会の相互の協力が必要である。

○ 問題解決学習の質を高める工夫

①切実な学習問題の設定

- ・ペットボトルを使い水の使用量を目で見えるようにして提示
- ・学校の水道料金をとりあげ、身近な数値との比較
- ・蛇口から水道水が届くまでの絵カード操作による学習問題の集約化

②社会認識を深める2番目の学習問題の設定

- ・取水制限の資料提示による子どもの思考の揺さぶり

(2) 所感

○ 水源林から蛇口までの8枚の絵カード

- ・追究活動の導入として、「水源林」「ダム」「浄水場」「給水塔」「水道管」「蛇口」「川」「取水口」のカードを並べ換え、それぞれに説明文を書かせることで、自分の学習問題がはっきりしていた。

○ 一通り追究活動が終わった時点で、さらに次の追究問題（第二の学習問題）を設定していること。

- ・水道に関わる人たちの工夫や努力を理解しただけで終わらず、「もしも断水したら?」「漏水や漏水、施設の老朽化したら?」などへの対応にまで自分の考えをひろげさせている。

○ 意見文として考えを書かせることで社会参画への意識を持たせる。

5年「水産業のさかんな地域」

(1) 授業の概要

○ 中心概念

漁業の盛んな地域では、自然条件を生かしながら、生産性を高めたり様々な日本の水産業が抱える問題を解決したりするために工夫や努力をしており、日本の食料生産を支えている。

○ 問題解決学習の質を高める工夫

①切実な学習問題の設定

- ・獲得した知識と矛盾する事実の提示
- ・児童の思考の流れに沿った問題解決学習の展開
教材構造図→学習構成図→指導計画化

②これからの社会参画につながるまとめ

- ・作品として水産業についての意見文を書く。

(2) 所感

○ 未来志向の学習展開

- ・日本の水産業の概要を学んだあとで、ホタテ日本1の猿払村のホタテ漁を取りあげ、「どのようにして日本1になったのか」を第2の学追究題としている。
- ・第1の追究問題解決で、日本の漁業に危機感を持った子どもたちは、第2の追究問題で未来に明るい見通しを持つことができた。
- ・指導者の指導観が正確に指導計画に表現されている。

○ 話し合いの活性化

- ・話し合いのスキルを常日頃から徹底し、学習に生かしている。

6年「新しい時代の幕開け」

(1) 授業の概要

○ 中心概念

明治時代の人々は、欧米の文化を取り入れながら近代国家としての仕組みを整え、新しい国づくりを勧めた。

○ 問題解決学習の質を高める工夫

①切実な学習問題の設定

- ・「大政奉還」と「大日本帝国憲法の発布」の資料比較と「江戸城入城」の資料提示

- 人物のはたらきに目を向けた「時代の変化」の認識と、「新しい国づくり」への問題意識の醸成
- ・「略年表」「黒船来航・アジアの植民地化」「江戸幕府崩壊」などの事象との関連
- 明治時代の人々の国づくりに関する問題を発見（学習問題化）する。

②社会参画につながる課題づくり

- ・「明治時代の国づくり」の認識を深めるため、課題を調べる活動の設定
- ・多面的な見方で深められた社会認識を生かし、これからの国づくりについて価値判断する活動の設定。
- 歴史を学ぶ意味について考え、社会参画の意識を育成する。

(2) 所感

- あまり使われない新鮮で効果的な資料を提示したことで子どもの知的好奇心を誘うことができた。
 - ・子どもたちの問題解決意欲を高めることに成功。
 - ・「明治の国づくり」へと学習目標を焦点化することができた。
- 「明治維新ワークシート」
 - ・常に単元の全体像を意識することができた。
 - ・子どもたちの思考・判断の着眼点をつかむことができた。
- 「思考の流れ図」の作成
 - ・児童サイドに立った優れた、そして効果的なもの。取り入れてみたい。
- 私にとっては3つの事例発表の中で最もよかった。

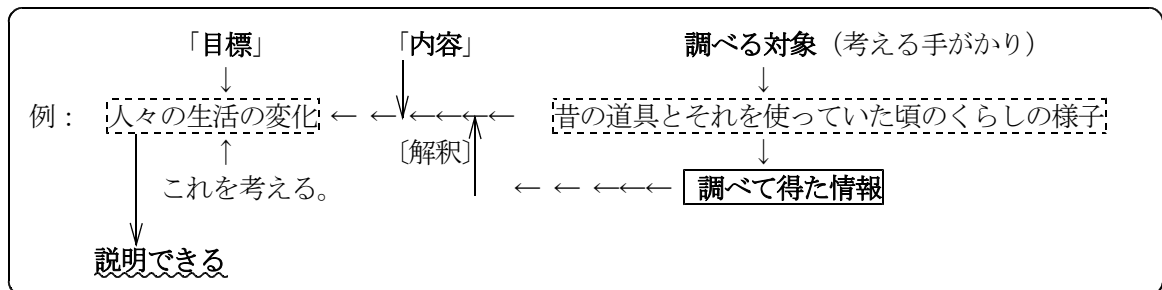
3 指導・講評

文部科学省初等中等教育局教科調査官 澤井 陽介 先生

1 子どもが「真剣に考える」授業づくり

(1) 学習問題や発問を明確にする。

- 「何を調べ、何を考えるか」を明確にする。
 - ・「何を」が大事……学習指導要領に示されている。
 - ・学習指導要領の「目標」と「内容」……「内容」に書かれていることが調べる対象。
- 社会事象の意味を考える。
 - ・「目標」と「内容」の区別……調べる対象を手がかりとして「内容」を考える。



- ・毎時間の課題のつながりが「単元を貫く課題」となっているか？

(2) 自分なりの予想を持たせる。

- 予想を持つこと……自分の「学習計画」を立てること。
 - ・自分の既有知識や経験から
 - ・予想を絞り込めるような支援を → 何でもありの予想は×
- 予想する場面
 - ・一人ひとりが持っている知識や経験を総動員した予想。→ 合理性と妥当性，客観性
 - ・主体的な学習のスタートが切れるかどうかのポイント。
- 学習計画を立てる。
 - ・学級全体の学習問題を具体化し、自分が調べるべきことを明確にする。

(3) 情報を焦点化して「考える場面」を設定する。

- 目標に迫るための「考える場面」……情報を絞りこむことが大切。
 - ・情報がたくさんあれば考えるようになるわけではない。
 - ・良質の情報を選択，活用する。

2 子どもが「よくわかる」授業づくり

(1) 体験や資料活用でつかんだ具体的な事実を大切にする。

- 「理解」とは、言葉の持つ意味を具体的な事実や情報と結びつけて、説明できること。
 - ・具体的な事実や情報をもとに、「つまり～」と理解への過程をたどる。
 - ・その結果、「なぜなら」「例えば」と説明できること。

- ・心理的習慣→わからないことに対して「もっと知りたい」と思うか「気にしない」と思うか〈ポジティブ感情の随伴〉
 - 「わかったら〈知的〉、いい気持ちが出た、うれしかった〈情的〉」という経験を。
 - 知と情が同時に成立する授業づくり(理解する上で重要なこと)
 - この積み重ねがポジティブな心理習慣を形成する。

- 入野
- ・授業で何を学んだか？ 学びがゼロの授業がないか。
 - ・確かな学びを……すべての担任が共有化→1年完結ではない指導体系を。
 - ・学び方、学ばせ方が大事……×知の切り売り→すぐに忘れる。
 - ・結果だけでなく、過程を大事にする教師

- 日置
- ・問題解決学習……学びの確かさ→生きてはたらく力に変換
 - ・解決したくなるような問題があることが第一……どのように醸成するか？ 仕組むか？
 - ・生きる力……知的、心情の面＝右脳と左脳 → 両立して初めて「確かさ」

◆ 問題解決学習について

- 鹿毛
- ・表情や姿の確認……子どもを見ていない教師。確かな学びをしている瞬間に注目する。
 - ・一人一人の子どもに心を寄せて、いかに学んでいるか？→いかに教えるか？
 - ・学びが成立しているかどうか？→正しく評価する教師

- 入野
- ・教師の力……児童理解ができていないかどうか。一人一人の学びをつかむ。
 - ・授業のふり返りができているか？→指導に生かす評価(今後の指導に反映)

- 日置
- ・理科では問題解決が目標
 - ・実感を持った理解をさせたい……「体得(長期記憶)」、「習得(活用)」、「納得」→確かな学び
 - ・小学校理科の問題解決学習
 - ……第3学年では「比較しながら調べる」、第4学年では「関係付けながら調べる」、第5学年では「条件に目を向けながら調べる」、第6学年では「推論しながら調べる」(学習指導要領解説編)ことが示されている。

◆ 具体的に授業をどうするか？

- 入野
- ・何を大事にするか？何をどう教えるか？考えさせることは何か？どこまで学ばせるか？
 - ・社会事象を確認するだけで終わっていないか？→×調べて、まとめて、終わり！
 - ・子どもの学びを想定(先取り)して授業を組み立てる。

- 日置
- ・教科の論理……問題解決は必然→いつまでたっても剥落しない知識・理解とするために。
 - ・予想や仮説「こうすれば解けるんじゃないか？」……本物の知をつくる
 - ・教師の指導……系統主義カリキュラムと経験主義カリキュラム
 - 系統主義カリ→子どもより先を行って行かない。
 - 経験主義カリ→子どもとともに学ぶ。学ぶ姿勢を子どもに見せる。

- 鹿毛
- ・授業づくり……教材研究→子どもを惹きつける教材
 - 〈知(わかる)と情(おもしろそう)の一致〉
 - ・「気づきに気づく」こと……友だちの気づきに気づかない子
 - 「えっ、ほんとう」「何でそうなの？」「えっ、何で？」
 - ・コミュニケーション……話したくてたまらない、友だちの考えを聞きたい。

◆ おわりに

- 日置
- ・学習指導要領をよく読んでほしい……目標・内容・活動・評価
 - ・目標……ここをよく読んで理解する
 - ・内容……これは教科書に具現化されている。→教える対象
 - ・方法……教師の力量にかかっている。問題解決学習の醍醐味。つまらない一斉授業。
- 鹿毛
- ・資質向上……授業研究会という優れた研修方法(世界で高い評価)
 - ・授業研究会……学校間差が大→形骸化/やらされているという意識/中味のない協議会知(知的満足感)情(情緒的満足)一致の取り組みを。
 - ・固有名詞やエピソードが出てくる協議会を……授業をよく見ている人の協議会
 - ・プロは仕事を楽しむ。しかし、同時に苦しい……苦楽しい(くるたのしい)
- 入野
- ・指導の手応え(成果)が実感できない教師→全体研修と個別研修を。
 - ・若手だけの研修会など。